

中央・総武線 ワンマン化絶対反対

乗務手当廃止・組織再編の撤回を



JR東日本は27年3月から中央・総武緩行線、京浜東北・根岸線をワンマン化すると公表しています。すでに津田沼の乗務員区では異動先が提示され、異動強制とワンマン化が「既成事実」かのように進められようとしています。

乗務手当廃止の強行、業務融合化、さらにワンマン化。こんな攻撃は絶対に許せない。どこまで乗務員を、現場を踏みに行けば気が済むのか。

怒りなしに語れない攻撃の数々

4月1日には京葉車両センターで機能保全の外注化が強行され、会社は「機能保全も委託できるものは委託する」とさらなる拡大を明言しています。

また、久留里線・久留里～上総亀山間の来年3月末での廃線が強行されようと

しています。被災した路線を除けばJR東で初めての廃線であり、全面的な廃線化攻撃の突破口にされようとしています。

会社は「鉄道を持つIT企業化」を徹底的に進め、現業部門で働く仲間を踏みにじり続けています。どれ一つとっても怒りなしには語れません。

「列車を止める」ストライキを

しかし、日々の鉄道の運行を守っているのも、鉄道の安全を守っているのも、各系統の専門的な技術・経験をもった現場労働者です。その現場をないがしろにする会社の攻撃は、根本的に矛盾に満ちています。

だからこそ、この攻撃の前提は職場の団結と労働組合の破壊であり、「職場から声が上がらない」ことです。

乗務手当も廃止し、ワンマン化や外注化で仲間から職場を奪い、廃線化で地域から鉄道も奪う——こうした攻撃に対して、「こんなことをやれば列車くらい止まるんだ」と会社に突きつけ、社会にも訴えるような闘いが求められています。

今こそ職場に闘う労働組合を！「列車を止めるストライキを闘える」ような労働組合を職場に取り戻そう。